

高温環境下におけるフェンシング実施時の 体温調節反応に及ぼす着衣の影響

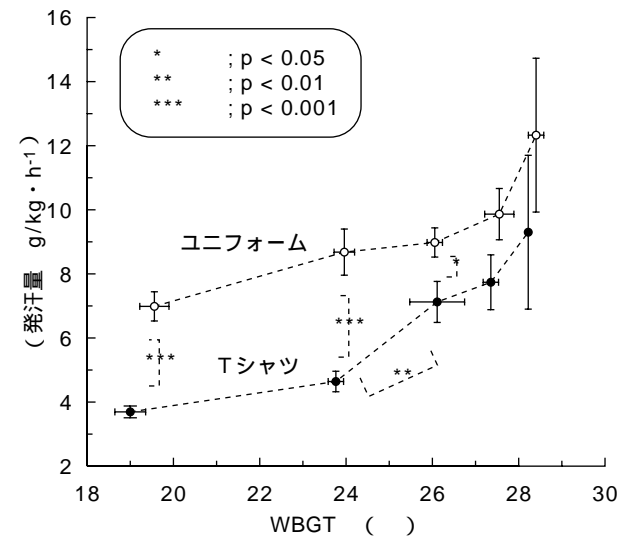
研究代表者 京都女子大学 中井 誠一
解 説 登倉 尋實

運動種目の特性および怪我の防止等の理由から、高温環境下でも長袖・長ズボン・マスク・ヘルメット等の着衣が必要となる種目がある（野球、アメリカンフットボール、フェンシング、剣道等）が、熱中症の危険にさらされます。それらの実態を知るために、Tシャツ・短パンでトレーニングおよびフットワークを行った場合（TS条件）と、マスクとユニフォームと剣を用いてレッスンおよびファイトを行う場合（FU条件）で体温調節反応を比較しました。環境温度（WBGT）17.2 から29.1の範囲では環境温度の上昇とともに、発汗量はFU条件下で高い値を示しました。また、大学フェンシング部選手6名でFU条件とTS条件で比較したところ、直腸温、皮膚温はTS条件よりもFU条件で高い値を示しました。

これらの結果は、高温環境下でのフェンシング練習時の温熱ストレスはTS条件よりもFU条件で大きかったことを示しています。高温環境下での着衣のあり方の研究が重要であることを示しています。



高温環境下でマスクとユニフォームをつけた練習で温熱ストレスが大きくなる。



フェンシング練習時発汗量の着衣による比較